

# 「裸の王様」とバーベキュー

きわめて次元の低い話です。

「そんな話より、もっと大事な課題があるだろう！」  
そう、お叱りをいただくに違いありません。

しかし、この「火災報知機取り外しバーベキュー」  
事件に、「善行土地取得問題」をはじめとして藤沢市  
で続出する様々な問題が象徴されているのです。

なぜ、こんな「次元の低い」問題が起きたのか、そ  
の背景を考えてみたいと思います。

## 火災報知機を取り外してバーベキュー

8月1日の夕刻、藤沢市役所職員会館1階の食堂で  
海老根靖典市長と80人ほどの職員の懇親会が開かれ  
ました。

市長は自ら鉄板で「藤沢チャー  
メン」を焼いてふるまい、副市長  
も網で焼き肉を焼いたそうです。

勤務時間外のことですから、懇  
親会を開いただけなら問題になる  
ことではありません。



▲海老根靖典市長

ただ、室内で火を使ってバーベキューを行ったので  
す。当然、かなりの煙も出ます。

そこで「この懇親会を企画した経営企画課（市の説  
明による）」は、設置されていた火災報知機を取り外  
すという挙に出ました。

これは消防法に違反する行為です。もし万一火災で  
も起きていたら、どうするつもりだったのでしょうか。

この行為は、思わぬところから発覚します。

立ちこめたバーベキューの煙が2階に上がり、2階  
の火災報知機が作動してしまったのです。防火扉まで  
閉まったといいますから、相当の煙だったのでしょう。

2階で仕事をしている職員が驚いて食堂に降りてい  
き、この顛末を知ります。

職員はただちに「すぐにやめてほしい」と抗議しま  
す。でも市長らは、この抗議を受けてもしばらくはそ  
のままバーベキューを続けたそうです。

のちに市は「ただちに網焼きは中止した」と釈明し  
ていますが、職員の証言とは食い違っています。そも  
そもそういう問題ではありませんか。

## 問題の本質は何か

この問題は9月7日、新聞やテレビが一斉に取り上  
げたことから全国に知れ渡ることとなります。

格好の「ワイドショーネ  
タ」でした。スポーツ新聞  
もとりあげ、「藤沢市の非  
常識」を嗤いました。

ですがこの事件は、単に  
「非常識」だけではすまな  
い、もっと本質的な問題  
をはらんでいます。



まず第一に、これはれっきとした違法行為だとい  
うことです。

消防法第38条は、「火災報知機を損壊し、又は  
撤去した者は、これを5年以下の懲役に処する。」  
と定めています。それほど行為なのです。

2001年に起きた新宿の雑居ビル火災は、44名  
が死亡する大惨事となりました。被害をここまで大き  
くした原因のひとつは、火災報知器のスイッチが故意  
に切られていたことでした。

火災報知器とは、それほど重要なものです。だから  
こそ、この6月からすべての住宅で火災報知器の設置  
が義務化されたのです。

その指導を行うべき市が、火災警報器を取り外した  
のです。これでは市民のみなさんに「火災報知器を設  
置してください」と指導できるはずはありません。

## 部下に責任を押しつける「トップ」

こうした問題が起きたとき、誰が「責任」をとるの  
でしょう。これは「危機管理」の問題でもあります。

9月7日の神奈川新聞には、海老根市長のこんなコ  
メントが報じられていました。

海老根市長は「今後このようなことがないように  
新井副市長を通じて担当部長（経営企画部長、  
財務部長）に注意した」とコメントした。

まるで他人事ではありませんか。

実際、市長は当初、担当の課長以下の処分事態を切り抜けようとした。

でも海老根市長の登場以来、藤沢市政は様々な場面で「市長のトップマネジメント」で動いています。

市長の指示によって、あらたな事業が次々と現場に降りてきます。このバーベキュー懇親会も、海老根市長になってから始まったことでした。

「トップマネジメント」を掲げるのなら、もし「部下が勝手にしたこと」であったとしても、市長は率先してその責任を負うべきではありませんか。

市議会は、「これでは納得できない」として紛糾しました。いたずらに「謝罪」を求めたわけではありません。市をひきいるリーダーのあり方を問うたのです。

市長のこうした姿勢は、初めてのことでありません。以前、市長の肝入りで作成された「藤沢検定」本に120カ所もの誤りが見つかったときも、結局、担当者が処分されただけで、市長から何ら釈明はありませんでした。

さらに、つぎつぎに新しい事実が発覚します。

消防から注意を受けたにもかかわらずしばらく報告が行われなかったこと、取り外しを依頼した業者が無資格だったこと。さらに、以前のバーベキューには当時の消防長までが参加していたことも発覚します。

これでは、およそ「危機管理」意識が欠如しているとしか言いようがありません。

9月議会の最終日、市長はようやく自らの責任を認め、給与の減額を提案します。しかし多くの議員は事実経過などをめぐって「幕引き」に納得せず、市長提案はかろうじて過半数の賛成を得るのがやっとでした。

## 市長に何も言えない

でも、誰が命じたにせよ、誰も報知器の取り外しを「おかしい」と言わなかったのでしょうか。

「善行土地取得問題」の審議の席上、ある部長は「疑惑」を生んだ原因を、こう述べました。

「いま市役所では、誰も市長に異を唱えられない雰囲気蔓延している。」

事実、私も市長の施策に異を唱えたたん、「あんな奴はクビだ！」と怒鳴られ「左遷」された職員を知っています。

こんな雰囲気の中では、「火災警報機の取り外し」や「不自然な土地の取得」を命じられたとしても、職員が拒めるわけではありません。

9月28日の毎日新聞に載ったコラムは、いまの市役所の雰囲気を端的に描いています。

現場から：「はだかの王様」 / 神奈川

昼下りの藤沢市役所脇喫煙所。職員らが集まって一服。「田舎のおやじから『バーベキュー騒ぎをテレビで見たが関係してないのか』って電話。参ったよ」「近所でも『役所はどうなってるの』と聞かれ、肩身が狭い」「湘南に比べ藤沢の知名度の低さを市長はいつも嘆くが、藤沢検定の大量ミスと善行土地疑惑にバーベキューが加わって全国区に?」「そういう問題じゃない」「消防長から注意された経営企画部長が3週間も報告を怠ったのは不自然だよ」「文書での火災報知機外しは課長レベルの判断で部長以上は知らなかったとの見解をどう思う」「あり得ないね。4回もやってんだよ」「いつから上にばかり目がいくヒラメの役所になっちゃったんだろう」「劇団四季のミュージカル『はだかの王様』藤沢公演で『私も裸の王様にならないよう気をつけないと』と市長があいさつしたそうだ」「何だ、分かってんじゃない」「しーっ、部長が来た。仕事、仕事っと」【永尾洋史】

これが、いまの藤沢市なのです。私たちは「裸の王様」の寓話を笑うことはできません。

## 「王様」の耳に声は届くか

ただ、職員のみなさんの名誉のために言っておかなければなりません。

いま、市役所でも勇気をもって、おかしいことを「おかしい」と発言する声があがり始めました。

「善行土地取得問題」を審議する議会の百条委員会では、市長や幹部の証言を否定する職員の証言があいつぎました。

どちらの証言が「正しい」か、即断はできません。

しかし、市長や副市長の証言を否定することは、組織に属する者として、たいへんな勇気のいることです。

その決断を後押ししたのは、いまの状況に疑問を持つ多くの声なき声と、市役所の職務に対する「誇り」でしょう。

私たちは「バーベキュー」問題を、いたずらに政争の具にするつもりはありません。しかし「バーベキュー」問題に象徴される海老根市政の体質が、「善行土地取得問題」をはじめとする様々な「問題」を生んでいることは、厳しく指摘せざるを得ません。

「王様は裸だ!」という声は、はたして届くのでしょうか。

参考人招致「市長に意見言えず」  
「市長に意見言えず」  
「市長に意見言えず」  
「市長に意見言えず」  
「市長に意見言えず」

裳、必要なかったと強調